

「さあ、みんなで、考えよう」

「福山雅治さんの曲「クスノキ」クイズ！」

シンガーソングライター福山雅治さんの「クスノキ」という曲があります。

クスノキ

作詩・作曲：福山雅治

2014年発表

我が魂は、この土に根差し 決して朽ちずに 決して倒れずに
 我が魂は、この丘の丘で生きる 幾百年越え 時代の風に吹かれ
 片足鳥居と共に 人々の営みと
 歓びと かなしみと ただ見届けて
 我が魂は 奪われはしない この身折られど この身焼かれども
 涼風も爆風も 五月雨も 黒い雨も
 ただ浴びて ただ受けて ただ空を目指し
 我が魂は この土に根差し 葉音で歌う 生命の叫びと

この歌にあるクスノキはどこにあると思いますか？また、この歌はどのような思いで書かれた歌だと思いますか？

「さあ、みんなで、考えよう！」

8月、9月の講演会や研修会の案内

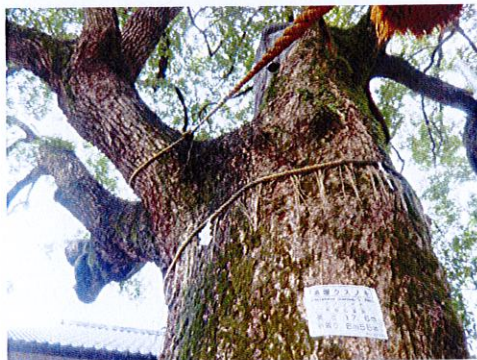
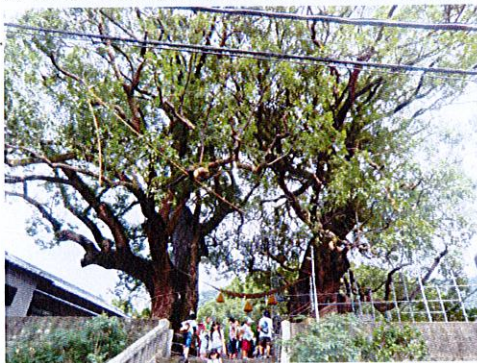
- 8月3日(木) 全人教「豊かな人権教育の創造」実践交流会 (10:00～16:30)奈良県社会福祉総合センター
 午前：全体講演「人権学習を主体的・対話的に深い学びへ～『人権教育は権利であり希望』であるために～」(中村さん)
 午後：実践報告とパネルディスカッション、行政説明
- 8月4日(金) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30～21:00)青山文化センター
 「外国人との共生による地域づくり」(高木和彦さん)[多文化共生マネージャー全国協議会]
- 8月18日(金) いがまち人権・同和教育研究大会 (19:30 ふると会館いが大ホール)
 「母の日記 ～がんばりすぎない認知症介護～」 秋川リサさん
- 8月19日(土) いがまち人権・同和教育研究大会
 中級講座 映画「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」上映 いがまち公民館
 基礎講座(下の5講座から2つを選択 1講座1時間 会場は柘植中学校と霊峰中学校)
 ①地名総監事件・統一応募用紙・就職差別 ②オールロマンス事件・同和对策事業・環境改善
 ③水平社宣言・糾弾闘争・部落解放運動 ④部落の文化・食肉産業・識字教室
 ⑤同和教育・解放奨学金・人権教育
- 8月23日(水) いがまち人権・同和问题地区別懇談会リーダー研修会 (19:30～21:00) いがまち公民館
 社会の変化と人権②「持続可能なまちづくり」(本江優子さん)[反差別・人権研究所みえ]
- 8月25日(金) 部落解放・人権大学講座 (19:30～21:00) ゆめぼりすセンター
 「なぜ人権問題を学ぶのか～自らの生き方を見つめることから～」(大橋久和さん)[伊賀市人権生活環境部]
- 8月25日(金) あやま人権・同和问题学習講座 (19:30～21:00) 阿山保健福祉センター
 「部落問題について」(中村尚生さん)[反差別・人権研究所みえ]
- 9月5日(火) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30～21:00)青山文化センター
 「高齢者の人権について考えよう」(平井俊圭さん)[伊賀市社会福祉協議会]
- 9月8日(金) いがまち人権センター解放講座 (19:30～21:00) いがまち人権センター
 「部落差別解消推進法の施行に伴うその意義と課題」(谷川雅彦さん)[部落解放・人権研究所]
- 9月22日(金) 部落解放・人権大学講座 (19:30～21:00) ゆめぼりすセンター
 「差別をなくす社会システム」(北口末広さん)[近畿大学人権問題研究所]
- 9月27日(水) いがまち人権・同和问题地区別懇談会リーダー研修会 (19:30～21:00) いがまち公民館
 社会の変化と人権③「身近な人権課題について考える」(中村尚生さん)[反差別・人権研究所みえ]

クイズ解説編

長崎市の爆心地から約800mの距離にある山王神社の2本のクスノキのことで、樹齢は約500年ほどで、原爆投下で枯れ木になりましたが新芽を吹き、復興に向かう被爆者を勇気づけました。いまも平和や再生の象徴として親しまれています。曲「クスノキ」は、福山さんの作詞・作曲で、アルバム「HUMAN」の1曲目を飾っています。

福山雅治さんの曲「クスノキ」

福山さんは長崎市で生まれ育ちました。高校生のときに亡くした父親が被爆していて、福山さんは過去に自らを「被爆2世」と語っていました。「被爆のクスノキの歌をずっとつくろうと思っていた」「僕らの世代は被爆2世と呼ばれている。そういうソングライターじゃないと歌えないだろうし、なかなか書かないだろう」とラジオ番組の中で話しています。



被爆クスノキは山王神社の境内入口に南北に向かい合って2本あります。南側は胸高幹周8メートル、北側は同6メートル程で樹高はともに20メートル前後です。両木とも原爆の爆風により上部が欠損しています。熱線により幹肌を焼かれた跡も確認できます。原爆により枝葉は失われ、幹も焼かれ黒焦げ同然となりました。被爆後に撮影された写真では立ち枯れていましたが、やがて樹勢を盛り返し、今日でも豊かな緑を湛えています。

2006年の台風13号により枝が折れた為、樹木医による治療を受けたときに幹の中に新たな空洞が見つかり、洞内から被爆当時のものと見られる表面が焼けた石や瓦礫などが見つかりました。1969年に「山王神社の大クス」として長崎市の天然記念物に指定され、境内を通る風で起こるその葉音も1996年に「山王神社被爆の楠の木」として環境省の「日本の音風景100選」に選ばれています。長崎原爆資料館

や学生サークル、市民団体、地元小学校等がその種子から育てた「被爆クスノキ二世」を平和の象徴として国内外に贈る活動を行っています。



山王神社二の鳥居(一本柱鳥居)

「クスノキ」の歌の中にある「片足鳥居」とはクスノキのある山王神社の二の鳥居のことで、原爆の爆風により片方の柱が吹き飛んだ状態で立っており、倒壊した部分も参道脇に現存しています。現存する原爆の被爆建造物となっています。公式名称は「一本柱鳥居」ですが、地元では「片足鳥居」という名称で浸透しています。



一本柱で建っている反対の台石の上に立ってみると、残っている一本柱鳥居上部の「笠石」が爆風でねじれている(約13°)状態がわかります。一本柱鳥居は、爆心地側は、熱線をあび

て石に含まれている雲母などが膨張し、表面が剥がれ、爆風で飛んできた石や瓦等があたり、爆心地側の面に刻まれていた奉納者の氏名の一部が剥がれて文字が読めなくなっています。



原爆投下により、4基あった鳥居も一の鳥居と二の鳥居を残して倒壊しましたが、一の鳥居は無傷で、二の鳥居は爆心から遠い片方の柱と爆風によりねじれて角度がわずかに変わった笠石の半分を残して立っていました。両鳥居は爆風の向きと平行して建っていた為に全壊を免れたといわれていますが、1962年に一の鳥居も交通事故により倒壊してしまい、跡地に案内板が設置されるのみとなりました。また、三の鳥居は倒壊した柱の一部が地元自治会により「坂本町民原子爆弾殉難之碑」として残され、毎年8月9日早朝に慰霊祭が行われています。



2015年8月9日の福山雅治さんのラジオでの語り

8月9日、日本人として、長崎の人間として、忘れてはいけない大切な日です。今から70年前(放送当時の2年前)の今日。1945年8月9日に長崎に人類で2つめの原子爆弾が投下された日です。その3日前の8月6日。人類ではじめての原子爆弾が広島に投下された日です。先日、NHKが発表したデータがありました。8月6日、9日が何の日かを認識していただけていない人が年々増えているそうです。「広島に原爆が投下された日は」という質問に、全国では30%の人しか正しく答えられなかった。広島では69%、長崎では50%。「長崎に原爆が投下された日は」という質問に全国では26%の人しか正しく答えられなかった。広島では54%、長崎では59%。8月6日、9日、15日のこの暑い暑い夏の日というのは、夏の暑さ、楽しさという気分と裏腹に、もう一つ、重苦しい歴史を思い出す季節とぼくは感じています。でも夏だけじゃなくて、世界中、昼夜を問わず、季節を問わず戦争というものがいまだにあるんですね。常に人類は文明的にも文化的にも進化しながらも戦争という存在におびえながら、ときにそれを行きながら進んできたこの70年だったわけですね。かつて幼いころ、いつかは戦争のない世の中、武器のない世の中、核兵器のない世の中が来るというふうにぼんやりと感じていたんですね。ところが今46歳になっての2015年。戦後70年を迎えたこの日本、この世界というのは、そうはなっていない。この現実「あー、残念だな」と思うと同時に、そういうことをぼんやりとしか想像していなかった自分の幼さと愚かさみたいなものを夏になると感じるんですね。地球上から戦争をなくし、すべての兵器をなくしということは絵空事と言われるかも知れないが、ぼくは、ものをつくる人間としては考える。だから自分の中で戦争であるとか、平和であるとか、そういったものを直接言葉にしないまでも、自分の中にあるそういう思いというものを表現していかなければいけないんじゃないか、一人の日本人として、長崎人として。ぼくもこの「クスノキ」という歌をつくるのに、ずいぶん長くかかりました。このクスノキというのは被爆クスノキで、原爆が落ちたときに熱線に焼かれてしまった。むこう何年間かは草木もはえないだろうと長崎は言われていたんですけども、クスノキも焼けて立ってはいったんですけども、「これはもうダメだろう」と、この山王神社のクスノキは言われていた。でも割と早い段階で芽吹いてきて、今でも生きています。人間と生きものの関係、どうやって人間がこの地球で生きていくのか。生きものだってそこにいるんだ。声なき命。人間は緑がないと生きていけない。声は出さないが人間にとってかけがえのない必要な命がある。その命の力強さ、地球によりいかされている人間という存在を感じさせているのがクスノキでした。

NNNドキュメント「4400人が暮らした町～吉川晃司の原点・ヒロシマ平和公園～」

2017年8月6日深夜に『NNNドキュメント 4400人が暮らした町～吉川晃司の原点・ヒロシマ平和公園～』が放送されました。この番組は、広島テレビ製作で今年4月に広島地区ローカル放送された番組でした。

現在、広島平和記念公園となっている場所は、原爆投下前は「中島地区」と呼ばれる広島有数の繁華街で、1300世帯4400人が暮らしていた地域でした。この中島地区は爆心地からほど近いので、原爆投下により一瞬で跡形もなく消滅してしまいました。現在の広島平和記念公園の下にはいまでも中島地区の家々の瓦礫が埋まっています。

吉川晃司さんの祖父は、この中島地区の端、現在は原爆ドームとして知られる広島県産業奨励館の川を挟んだ対岸の斜め向かいで「吉川旅館」という割烹旅館を営んでいました。今年リニューアルされた平和祈念資料館の原爆投下前の大パノラマ写真には、対岸にある3階建ての吉川旅館の姿が映っています。彼の父親もここで生まれ育ち8歳まで暮らしていました。原爆が投下される前に旅館を別の人に譲り渡して、吉川さんのお父さんは疎開していたので原爆の直撃を受けることは逃れましたが、彼の父は原爆投下直後(8月17日)に疎開先から広島に帰っているため、そこで被曝(入市被曝)しました。

番組では広島平和記念公園の発掘調査の様子が放送されました。ちょうど吉川旅館があった場所に立った吉川晃司は「父親たちが疎開をしてなかったら私はここに当然生まれてないわけですよ。この距離だから、影も形もないわけですよ。」「年を重ねるごとに故郷への思いも変わってくるって言うか深くなっていく」と広島への思いを語っていました。

広島カープ「ピースナイター」



2013年8月6日(4年前)に広島のマツダスタジアムで開催された広島 vs 阪神戦。そこで始球式をおこなった吉川晃司さんが、5回終了時、広島原爆の爆心地から1.8キロで被曝したピアノ(被ばくピアノ)の伴奏で、被曝二世としての思いを込めてジョン・レノンの『イマジン』を一部歌詞を変えて歌いました。

吉川さんが歌った「イマジン」

天国はない ただ空があるだけ
国境もない ただ地球があるだけ
みんながそう思えば 簡単なこと
放射能はいらない もう被ばくもいらない
偉い人も 貧しい人も
みんなが同じならば 簡単なこと
夢かもしれない
でもその夢を見ているのは、一人だけじゃない
世界中に いるさ

本年度の「ピースナイター」

緑色基調の「ピースナイター新聞」を来場者に配布、5回裏終了時にスタンドで掲げ、球場全体を緑色に染め、原爆ドームと同じ高さ25mに当たる席の方には、赤色のピースポスターを掲げ、「ピースライン」を作り、グラウンドでは高校生、中学生、小学生が平和への祈りを込めたパフォーマンスを行い、ライト側コンコースかば広場の「折り鶴ブース」では「PEACEおりがみ」で折り鶴を作れるコーナーやカープの監督や選手が作った折り鶴の展示などを行った。

核兵器のない平和な世界を祈る「ピースナイター」は、本年度は8月2日に、広島カープの本拠地マツダスタジアムで開催(※8月6日は横浜で他球団主催の試合)されました。「ピースナイター」は2008年に「折りづるナイター」として始まり、今年で10回目となります。

今年は広島県生まれで被曝2世の歌手、高橋真梨子さんが始球式を務めました。「母から聞いた当時の情景や気持ちがこみあげてきた」と言います。カープの選手は原爆ドームなどがあしらわれたワッペンをユニホームの袖につけていました。

5回終了時、ジョン・レノンの「イマジン」が流れる中、観客は球場で配られた紙を掲げ、スタンドを緑に染めました。原爆ドームと同じ高さ25メートルの客席部分には、赤い「ピースライン」が浮かびました。

過去の始球式では、5歳の時に被曝し姉を亡くした元プロ野球選手の張本勲さんや、漫画「のだしのゲン」作者の故中沢啓治さんらが平和を願う一球を投じています。

文責・橋本浩信